

虚子記念文学館投句特選句

・令和五年九月

稲畑廣太郎 選

秋蝶を日のしづくともかけらとも

岡山 石井宏幸

主なき邸の秋風虚子館へ

新潟 安原 葉

ひよつこりと訪ねて来たる穴まどひ

兵庫 池田雅かず

翺雲空に自由詩定型詩

兵庫 小柴智子

受粉てふミクロのドラマ稲の花

大阪 多田羅紀子

平凡に時流れ去りさるすべり

香川 三好ようこ

慕ふ人多き西行露の墓

京都 西村やすし

豪雨去り大樹を射抜く月明り

兵庫 二瓶美奈子

露の世の十八年を耐へてこそ

兵庫 深野まり子

露けしや今度最後の同窓会

兵庫 惠島祥一朗

入選句・令和五年九月

萩の風三代句碑に揺れやまず	岡山	小幡恒雄	勝負服赤と決めゐる生身魂	徳島	奥村 里
一声で魔法の掛かる夜学かな	京都	杉森大介	ナイターの果て星に空返しけり	兵庫	涌羅由美
みな同じうた口ずさむ翳雲	大阪	ふじもと言果	言ひ出せぬこと手花火の青に消ゆ	兵庫	中村恵美
秋めきしことは山路の草木にも	石川	白根寿子	野分あと早やも騒がし鳥語かな	京都	木村直子
流灯のあとの暗闇みな無口	大阪	窪田由紀子	轡虫鐘の音少し遠ざけて	兵庫	武田奈々 (青少年)
空腹と眠気勝負の夜学の子	大阪	若林友子	日差しまだ衰へ見せず秋暑し	京都	山崎貴子
秋簾巻き上げ町の音親し	奈良	山口廣世	秋遍路持鈴の音の澄み渡る	兵庫	高橋純子
すがれゆく色を揺らして猫じゃらし	大阪	大橋明子	手に余る蔓の行方も牽牛花	兵庫	岸川佐江
明るさの大きな余韻初月夜	兵庫	奥田好子	奔放な千草の庭に秘む主張	兵庫	深尾真理子
夜の帳指に絡めて盆踊	奈良	河村久美子	新しき俳磚は友秋の日に	兵庫	辻田あづき
朝光をまとひ耀ふ芋の露	石川	村上秀吾	おもかげと語りて館の萩の花	大阪	林 曜子
米寿より愛の告白星祭	兵庫	森岡喜恵子	新涼やきのふとちがふ雲の白	兵庫	永沢達明
白萩の零れて白の際立てり	三重	池本準一	秋扇母に昔の恋話	兵庫	辻 桂湖
一瞬てふ美しきもの揚花火	大阪	立入宮子	二次会は曾根崎新地西鶴忌	大阪	須知香代子
タワマンの最上階に秋刀魚焼く	兵庫	上岡あきら	秋の蚊を討つて小さな大勝利	石川	辰巳葉流
襲ひ来る睡魔を払ふ夜学かな	兵庫	宮本露子	虚実入り交じる浮世や西鶴忌	大阪	河辺さち子
爽やかな会話頷きつつ聞いて	東京	荒川ともゑ	秋暑し雲に縦横ありにけり	兵庫	池田文子
虚子館へ新しき九月の風を聞く	兵庫	平田 恵	田圃道夕日に映える稲穂かな	兵庫	飯田悠人
整ひし庭秋灯のなつかしく	兵庫	川村ひろみ	我俳磚秋日眩しき庭に建つ	香川	藤田敦雄
アラベスク上手に弾く子星月夜	兵庫	吉村玲子	決断の庭木の高さ露けしや	大阪	谷本房子
下校道いつも道草夕かなかな	兵庫	齊木富子	守武忌十七文字といふ文化	石川	辰巳昌彦
月影の深みぬばたまの闇夜へ	兵庫	山田翔太	爽やかな笑顔涙の甲子園	三重	松村咲子
反り返る泥の畳や秋出水	兵庫	武田優子	お屋敷にそれぞれ小さき花野かな	大阪	奥野千草
六甲の雲の去来や九月来る	鳥取	棕 誠一朗	西鶴忌浮世の月のはにかみぬ	大阪	徳永由起子
鯉の口かすめ秋蝶ひらり行く	兵庫	槌橋眞美	暁の澄める虫の音残る月	岡山	田口壽枝
耳障りいつしか慣れて轡虫	大阪	西尾浩子	木道を譲り譲られ大花野	大阪	山田佳音
聖堂の扉も秋の出水跡	香川	葛原由起	虫の庭風のしるべの整へり	兵庫	黒田千賀子
			心気澄む高きに登る朝かな	兵庫	前田容宏

盛会の余分の椅子に扇措く	大阪	多田羅初美	ゼスチャーで椅子ゆずり合ふ虫時雨	兵庫	岩鼻絹子
磯ものに酌みたき夫や颯雲	兵庫	山之口倫子	流星の予兆と余韻空を統ぶ	兵庫	伊集院秀樹
秋の寺地獄絵だけのなまめかし	大阪	北上美佐子	千年の樹齡の森に蟬七日	石川	伊東弥太郎
木瓜の実の熟れて目立つて無鄰庵	兵庫	小川孝子	天上の清けき白珠彼岸花	神奈川	小林 心
とんぼうの空となるより里心	兵庫	田村惠津子	水澄むや芦屋を流る川二本	兵庫	阿曾宏之
秋探り来れば北国湖の紺	兵庫	西村みどり	鬼ごつご追ひまはす背に芒の穂	東京	宮村土々
衣被うまく剥ければ母のこと	奈良	堀ノ内和夫	秋休み学生特権満喫せ	兵庫	藤岡聡久
月天心青き地球の寝静まる	大阪	田邊育子	コスモスや風には影も香もなくて	兵庫	太平楽太郎
壺に溢る芒は風を探しをり	兵庫	岩水ひとみ	秋の水右へ左へ伯備線	兵庫	キートスばんじょうし
ふる雨の秋の蚊のなく旅の宿	千葉	山崎寿仁	庭ながら尾花捧げん今日の月	埼玉	土井洋子
鶴塚に掛かる羽衣水澄めり	兵庫	玉手のり子	蘭の花わづか傾き花器の縁	神奈川	金子三奈乃
桃の香の仏間に満つる朝かな	兵庫	山岸正子	弓を引くうなじの白き初秋かな	神奈川	進藤剛至
水澄める箕面の猿は腕白に	兵庫	大西美知子			
水澄めり松籟耳に遊歩道	兵庫	雲山ひまり			
桃挽げば掌に甘き香の残りたる	兵庫	入谷千恵子			
澄む水の踝よりの肌触り	兵庫	道中義臣			
猫なでて桃の熟すを待つ日かな	兵庫	長谷川敬子			
台風や農機置場のトタン屋根	愛媛	星月彩也華			
乱れ萩カオスに何か生まれそう	兵庫	月あんぬ			
秋晴やきゅつと結びし靴のひも	奈良	豚々舎休庵			
窓際に行儀良き猫月見かな	兵庫	高市敦之			
野分会発足の秘話爽やかに	兵庫	藤井啓子			
小鳥来る天の佳信を携へて	鳥取	棕 則子			
歩道橋ここにも昼の鉦叩	兵庫	足立朱麻			
永遠の星の川ゆく白鳥座	愛知	小野 薫			
月天心胡弓は空へ坂の町	兵庫	福田光博			
馴れ初めを聞きたがる子のゐて良夜	和歌山	中島紀生			
夕照の演奏会につくつくし	滋賀	近江堇花			
一歳が背比べする大南瓜	神奈川	斉藤苑子			